

平成 25 年度調査研究等計画書

事業名	養殖技術向上化試験			
事業年度	平成23~25年	事業費 財 源	3,105 千円 (-)3,105(国) (諸)	担当者 増養殖環境課 黒原健朗・渡辺貢
<p>【背景・目的】</p> <p>本県の養殖漁業は漁業生産額全体の約 28%を占めているにもかかわらず、小規模な経営体が多く、飼料価格の高騰や販売価格の低迷、品質及び生産性の低下、さらに、消費者ニーズへの対応などの問題を克服できないため、産地間競争力が弱く、経営の安定化が期待できない状況である。</p> <p>そこで、マダイ及びカンパチ養殖において、養殖業者からの要望と関心が大きいコスト削減、品質向上等に関する試験研究を行い、経営強化に意欲的に取り組むグループの活動を技術的側面から支援する。</p>				
<p>【事業の概要】</p> <p>県内の養殖生産グループが組織的な活動を行う際に求められる養殖生産技術の向上及び経営の安定に資する研究・技術開発を行う。</p> <p>なお、得られた成果は漁業指導所とともに現場への迅速な技術移転を図る。</p>				
<p>【全体計画とこれまでの成果】</p> <p>1. 水温及び成長段階ごとの適正給餌による給餌量の削減と環境負荷低減 コスト削減が急務である現在の養殖現場において、生産経費の 60%以上を占める餌料コストの削減を図る。23~24 年度には飼料の効率が低下する高・低水温期における適正な給餌頻度を検討した。</p> <p>2. 県内特産物の利用による品質向上 県産特産物のショウガや地元産品である直七の養魚飼料への利用可能性を検証する。24 年度は飼料へのショウガ粉末の添加効果を調べた結果、マダイ及びカンパチで給餌の効率がやや向上した。また、直七果汁添加飼料を投与した魚では食味試験において安定して高評価がみられ、イベントやマスコミを通じて一般消費者へのアピールを行った。</p> <p>3. 制限給餌による成熟コントロールの検討 産卵期にマダイの成熟を抑制することによって、商品価値の低下を軽減する技術開発を行う。24 年度は給餌頻度が生殖腺の発達（GSI）と体色の黒化、飼育成績に及ぼす影響を調べた。</p>				
<p>【25 年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンパチ及びマダイ 1 歳魚における適正給餌頻度試験（高水温期及び水温変動期） ・マダイ及びカンパチ 0 歳魚における補償成長の確認（高水温期） ・カンパチ 1 歳魚に対するショウガ成分抗病性試験（高水温期） ・カンパチ 1 歳魚に対するショウガペースト添加試験（高水温期） ・マダイ 1 歳魚及び 2 歳魚の成熟抑制試験（産卵期前～産卵期） <p>【成果目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダイ及びカンパチの餌料コストの削減につながる給餌方法を確立する。 ・ショウガ成分がカンパチのハダムシ対策に有効かを見極めるとともに、コストの削減を試みる。 ・マダイについて、産卵期に問題となる商品価値の低下を抑える給餌方法を確立する。 <p>【期待される効果】</p> <p>餌料コストを削減できる適正給餌体系を確立し普及させることで、養殖漁家の収益改善と経営意識の向上が期待される。また、補償成長が確認されれば、給餌量の削減と合わせて魚病対策や赤潮発生時のリスク軽減につながる。県内特産物のショウガが養殖魚の飼育成績向上や魚病被害低減に寄与できれば、コストの削減と歩留まりの向上が期待できる。また、柑橘系果実の生産が盛んな本県ならではの付加価値が担保されれば、養殖魚の販売力強化につながる。</p>				